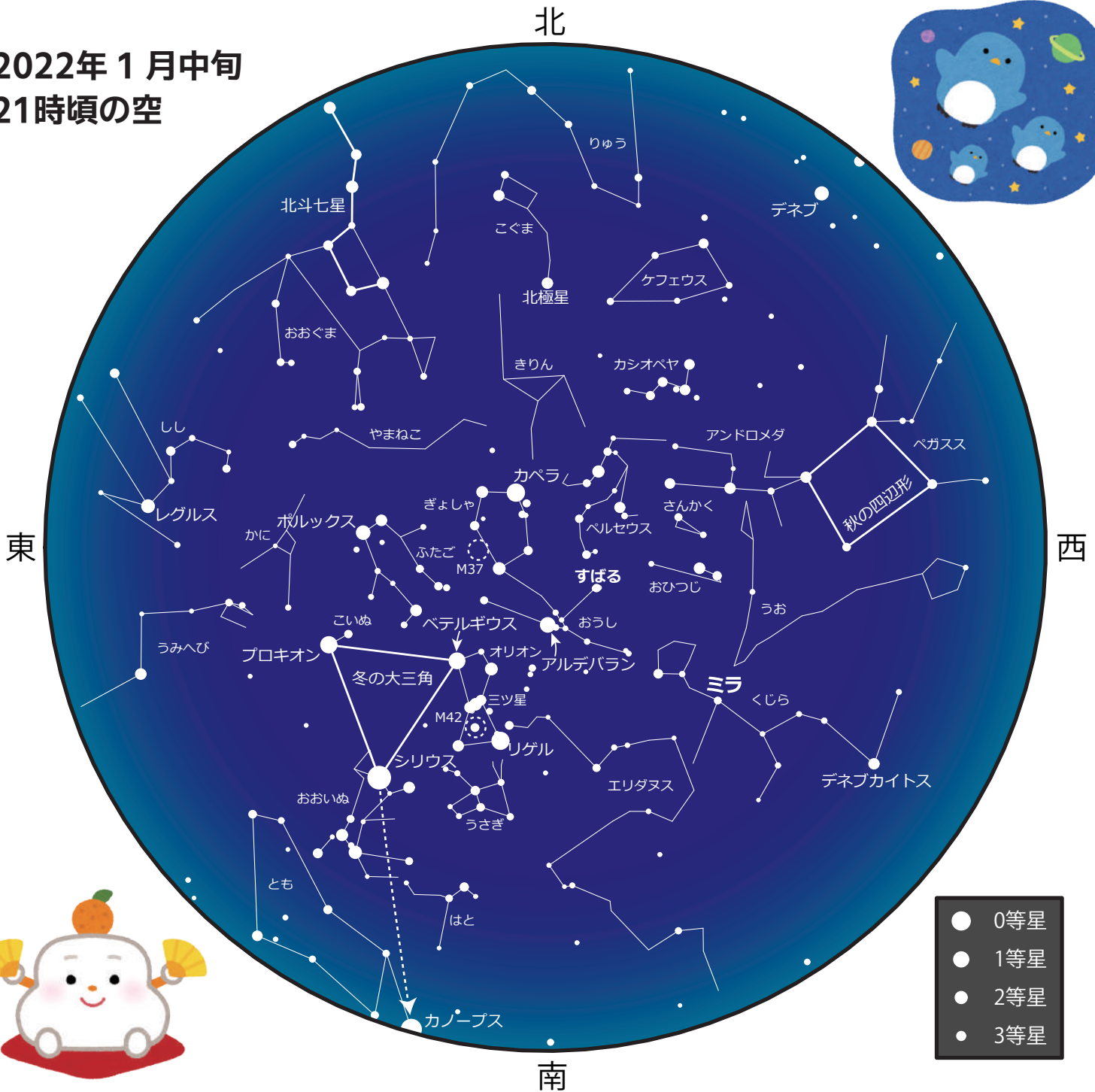


阿南市科学センター 1月の星空案内

2022年1月中旬
21時頃の空



新年をむかえ、寒さが一層身に染みる季節になりました。夜空でも冬の星や星座たちが見ごろとなっています。冬の星座の星たちは明るい一等星が多いこと、さらに冬は空気が澄んでいるため、より豪華な星空を楽しむことができます。

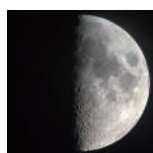
南の空高いところを見てみると、同じくらいの明るさの星が3つ並んでいるのに気づきます。この星は**三ツ星**と呼ばれ、オリオン座のベルト部分にあたる星です。そこからもう少し高いところに視線を向けてみると、明るくて赤っぽい星、**ベテルギウス (0.5等)**が見つかります。ベテルギウスから東の方にある**プロキオン (0.4等)**、そして空の低いところに輝く**シリウス (-1.5等)**と、3つの星を結ぶと形が整った三角形ができます。この星並びが**冬の大三角**です。またベテルギウスとプロキオンを結んだ線の midpoint からシリウスへ、さらにそこから南へとたどると、**カノーパス (-0.7等)**が見つかります。カノーパスは低空で見にくいいため、姿を目にすることができると縁起が良いとされていました。南の空がひらけた場所でカノーパス探しにチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

■ 1月の月の満ち欠けと惑星について



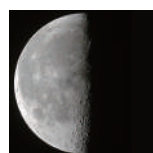
新月
3日



上弦
10日



満月
18日



下弦
25日

1月の天体観望会で月が見える日時は？



1/8(土) 全ての回で観察可



1/15(土) 全ての回で観察可

水星：上旬の日没後、西のごく低空に見える。【約 -0.3 等】

金星：下旬より、日の出前、東のごく低空に見える。【約 -4.6 等】

火星：日の出前、東の低空に見える。【約 1.5 等】

木星：日没後、東の低空に見える。【約 -2.1 等】

土星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星は1月10日頃、金星は月末の明るさ。



満ち欠けする金星

左から、右の写真にかけて、金星が細く大きくなっている。金星は地球との位置関係により形が少しずつ変化する。

■ 1月のおすすめ天体

★オリオン大星雲 M42 (オリオン座)

オリオン座のベルト部分にあたる三ツ星から、もう少し目線を下にうつすと少し暗い3つの星(小三ツ星)が見えます。肉眼で見ると普通の星のようにも見えますが、空の暗いところで見ると、小三ツ星の中央あたりがもやもやとしているのに気づくかもしれません。その正体は**オリオン大星雲**です。

オリオン大星雲を写真で撮ると赤っぽい姿がとらえられます。それは若い星が出す紫外線によって、周りにある水素のガスが赤い光を発するためです。中心部を113cmの望遠鏡で見ると4つほどの星が見えます。こちらはトラペジウムといい、生まれたばかりの星たちです。オリオン大星雲の中では今でも星たちが誕生しています。まさに星のゆりかごといえるでしょう。



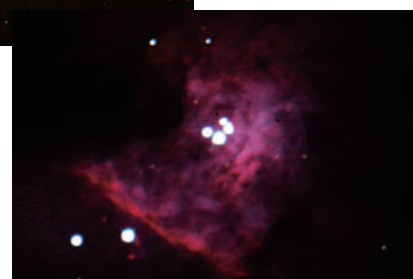
左上：オリオン大星雲

10cm 屈折望遠鏡で撮影

右下：オリオン大星雲の中心部

113cm 反射望遠鏡で撮影

(撮影：A.Suzuki)



散開星団 M37 (撮影：A.Suzuki)

★散開星団 M37 (ぎょしゃ座)

冬の一等星カペラを持つぎょしゃ座には **M36**、**M37**、**M38** と3つの**散開星団**があります。散開星団とは、星が数十から数百程度集まっており、比較的若い星たちの集まりです。その中で最もオススメが **M37** です。

残念ながら肉眼で見ることが難しい天体となりますが、観望会でご覧いただきたい天体の一つです。113cmの望遠鏡で見ると、視野いっぱい星が集まっている様子が見られます。その姿はまるで散りばめられた宝石のようです。散開星団は星の密集度による分類法がありますが、M37は2番目に密集度が高いグループに分類されています。